



名寄市立大学の窓から知への誘い

「社会的課題とスポーツ(2)」～日本におけるスポーツ制度の形成～

保健福祉学部 教養教育部 准教授 関 朋昭

vol.21

前回、社会的課題は社会を幸福にしようとした働き掛けのもとに生じ、非常に厄介なもの、という話をしました。

スポーツは、祭事、休戦、余暇、健康など、人々が幸福な生活を過ごすために誕生してきたものといえますが、その扱いやすさから経済、政治、教育などさまざまなものに利用されてしまう特徴があります。その利用方法も国によって大きく異なり、国々の抱える社会的課題と密接にかかわっています。

日本では文明開化の明治期にイギリス、アメリカなどからスポーツを輸入し、スポーツを学校の中で行うという制度を創り上げました。その結果、日本の部活動は、多くの国民に支持されながら子どもたちのスポーツを支援する制度として永く発展してきました。日本の特徴は、「多様な競技種

表：日本・アメリカ・イギリスの学校スポーツ概観の比較

	日本	アメリカ	イギリス
目的	人間形成	競技力向上	人間形成
設置	ほぼすべて	ほぼすべて	ほぼすべて
種類	多い(30種類)	少種目	多種目(10種類)
加入率	50～70%	30～50%	約50%
活動状況	活発(3年間)	活発(シーズン制)	不活発(掛け持ち)
全国大会	有	無	有
指導者	教師	プロフェッショナルコーチ	教師
総括	教育活動	競技力育成	レクリエーション

目、「多くの参加生徒」、「大規模な全国大会」など、アメリカ、イギリスよりも充実した制度となっていることが分かります。

日本は外来スポーツをい事に学校教育と調和させ、部活動という世界に類を見ない子どもたちのスポーツ制度を創り上げました。この制度の注目すべきところは、明治期、近代化をめざす貧しい時代であったがゆえに人件費(教員)、施設整備(学

校体育施設)、物品(生徒会予算)という元からある資源を最大限に活かしたことです。「知恵」を働かせた日本らしい素晴らしい経営手腕だと私は思います。

現在、グローバル化のなか、日本の企業人、研究者、さらにはスポーツ選手たちも世界へと活躍の場を求めて飛び出すようになってきました。これは素晴らしいことです。しかしその一方で、グローバル化が世界を「不幸」にするという論調もあります。1990年代以降、アメリカ主導のグローバル化が席巻したかにみえましたが、そのアメリカもやや存在感が薄くなり、絶対的な存在ではなくなってきました。

社会的な制度や組織は「幸福」のためのものであるならば、「スポーツ」というものをオリンピック、ワールドカップなどのメガイベントの優劣だけで判断しては

ならず、経済、政治などにも惑わされてはいけません。つまり、スポーツの国際大会で優れた成績を残している国家が、必ずしも幸福な国、豊かな国、理想の国と国際的に評価されているわけではないはず。

人為がつくりあげる制度や組織は、幸福のために機能することが前提となるはず。そうすると、幸福や豊かさは、その国々の文化的な多様性を無視することはできず、やはり制度設計、デザインが問題となってきます。国家のセンスです。

現在、日本が抱える大きな社会的課題は、やはり「少子高齢化」ではないでしょうか。この幹から枝葉のように介護問題、医療格差、年金などの問題が派生してきます。また少子ということであれば子どもたちの教育の問題も無視できません。そうした背景のなか、スポーツが社会的課題とどのように向き合い、連携していくことが望ましいか、研究者として悩ましく壮大な問いとなっています。

名寄市立大学道北地域研究所 第1回市民公開講座

市立大学道北地域研究所では毎年、市民の皆さまを対象とした市民公開講座を開催しています。今回は「子どもにやさしいまちづくりと子ども条例」について話題を提供します。

子どもの問題に取り組む際のグローバルスタンダードである子どもの権利条約国連採択25周年・日本批准20周年にあたる今年、まち全体で子どもの育ちを支える「子どもにやさしいまち」とはなにか、そのなかで子ども条例はどのような意味と役割をもつのかなどについて、国際社会の視点や全国の取り組みを参考にしながら、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。たくさんの参加をお待ちしています。

- と き：9月30日(火) 18:30～20:00
- と ころ：名寄市立大学 新館2階 121教室
- テ-マ：「子どもにやさしいまちづくりと子ども条例」
- 講 師：地方自治と子ども施策全国自治体
- 参加費：無料(当日会場までお越しください)
- 問い合わせ：名寄市立大学道北地域研究所 ☎01654②4194(内線2101)

